

## 世界的なEV化の動き、出遅れる日系メーカー

### ◆欧米で広がるガソリン車禁止の動き

2022年10月27日、欧州委員会は、35年までにEU内でガソリン車の新車販売を禁止する方針に、欧州議会と欧州理事会が合意したと発表した。欧州委員会は、21年7月に、30年までに温室効果ガス排出を90年比で55%削減する包括的な政策パッケージ「Fit for 55」を発表しており、ガソリン車の販売禁止は其中で提案されていた。禁止の対象にはハイブリッド車（HV）やプラグインハイブリッド車（PHV）も含まれ、35年以降は電気自動車（EV）や燃料電池車（FCV）など、ガソリンを一切使用しない車種のみがEU内で販売可能となる。

米国でも、8月にカリフォルニア州が35年までにガソリン車の新車販売を禁止すると発表した（PHVは可）。9月にはニューヨーク州がカリフォルニア州と同じ規制を採用すると発表するなど、ガソリン車禁止の動きが広がっている。

### ◆中国系メーカーが躍進するEV、日系は出遅れ

メーカー別でみると、21年の世界のEV販売台数のトップは米国のテスラであるが、前年比231%と急成長し世界2位の販売台数となっているのが中国の比亞迪（BYD）である。BYDは、10月に開催されたパリのモーターショーで、欧州に本格参入すると発表した。22年内にドイツで3車種を発売し、23年には英国とフランスでも販売を開始する。

BYDは他の自動車メーカーとの協業も進めている。BYDとトヨタの合弁会社は、10月に中国でEV「bz3」を発表した。「bz3」は、1回の充電での航続可能距離が約600kmと世界最長レベルであるほか、10年後でも電池容量90%を維持するなど電池の耐久性にも力を入れている。

メーカー別の世界のEV販売台数の上位は中国系、欧州系、韓国系のメーカーが占めており、日系ではトヨタの16位が最高と、日系自動車メーカーは世界のEV化の流れに完全に取残されている。日本の多くの産業が競争力を失っていく中で世界的なシェアを維持してきた自動車産業であるが、自動車産業の大きな転換点の中で、今後も競争力を維持できるのか懸念される。

【今村弘史】